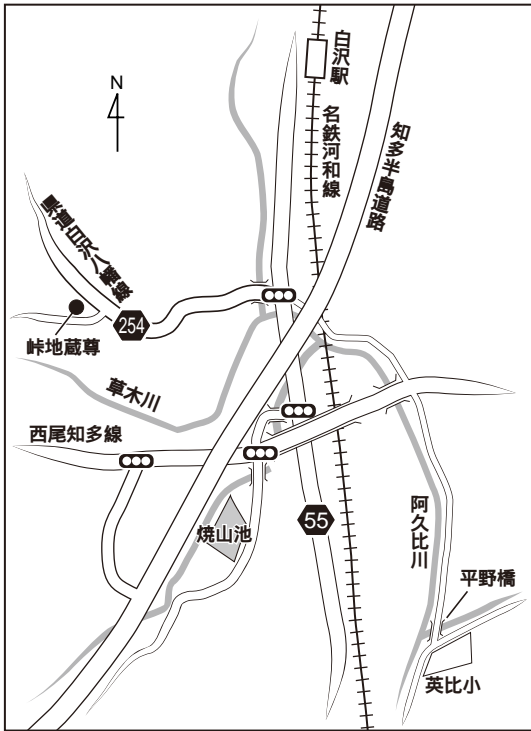


シリーズ

阿久比を歩く ⑤9



峠の「抱き地藏」

前回歩いた平野橋から阿久比川沿いを北に向かい、県道白沢八幡線(254号線)をぶらり旅した。日本各地で観測史上最高気温を記録するなど猛暑が続く。「暑いなあ」「この暑さなんかならないですね」。友人との会話は暑さの話題にしかならない。とにかく暑い。阿久比川には大きなコイたちが気持ちよさそうに泳ぐ。水の中で涼しい顔をするコイがうらやましく思える。

阿久比の道を行く (県道白沢八幡線ほか)



知多半島道路の下をくぐり、県道55号線を横断して県道254号線に入り、西へ向かう。田んぼでは、実り始めた稲穂のガードマン「かかし」の姿が目につく。自分たちを励ます気持ちも込めて「暑い中、こくろうさま」と声を掛ける。宝安寺に立ち寄り休憩を取る。「暑い」「・・・」。水分補給は十分過ぎるほど取り、腹の中は「チャポチャポ」。境内でセミの音が「一匹もしないのがせめてもの救い。流れ落ちる汗をタオルでふく。再び県道に戻る。民家が立ち並ぶ間を道が続く。緩やかな坂道を上っていく。沿道の柿の木には、緑色した実が付く。「稲穂」しかり、「柿の実」しかり、自然界では暑さの中でも、秋の準備が着実に進んでいる。実りの秋が待ち遠しい。分かれ道の一角にのぼりが立ち、小さな堂の中に地藏がまつられている。地藏のことが気になり、近くの民家で尋ねる。地藏のある場所は昔の峠で、道しるべの役割を果たす。



稲穂のガードマン「かかし」

「右佐布里」「左草木」と刻まれている。地藏を抱いて祈ると、願い事がかなうと伝えられ、今でも地藏を抱く人の姿を見掛けるとのこと。八月と一月の年二回「地藏まつり」が行われ、近くに住む六件の家が順番で世話をし、まつりの日にはお年寄りや子どもが念仏を唱える。「お参りが終わった後に団子やお菓子が配られるから、子どもたちは毎回来しみにしてますよ」と話を聞かせてくれた女性が目を細める。「君もお地藏さんを抱いて願い事をしてみたら」と友人に勧める。恐る恐る地藏を抱き、目を閉じて何やら祈っている。「何をお願いしたの?」「もちろんあのことです。想像にお任せします」。想像は付くのでそれ以上のことは聞かなかつた。知多市の看板が出てきたので今日のぶらり旅を終えることにした。私たちの周りを赤トンボが飛び交う。暑い中、少し秋が見えた。今回で「阿久比の道を行く」を終了し、次回から「ふれあいマップを歩く」を連載します。